

お金の価値

私には大学生になったばかりの娘がいる。自宅から1時間半ぐらいで通える大学に入ったが、大学の寮で生活するように勧めた。自分で生活することを覚えることが大切だと考えたからだ。一人暮らしは心配だが、寮ならば親も比較的安心だ。本人も寮生活を希望し、寮で生活を始めた。寮は設備が整っていて先輩のアシスタントもいる。通学にも便利だ。自炊することも覚え、洗濯や掃除も、もちろん自分でしている。寮生仲間にも恵まれ、いまのところ楽しそうに暮らしているから、親としても安心してた。勉強もそれなりに一生懸命しているらしい。

ところが、一つだけうまくいっていないことがある。お金の管理である。毎月決まった額を送金して、足りない場合には理由を添えて相談するように言ってあった。月々の送金額は大学生の平均的生活費の内訳などを調べて決めた。私自身も大学入学と同時に自分の銀行口座を作って生活費を管理していたから、入学直後に生活用品などをそろえるためにある程度の初期費用がかかることは理解できる。教科書や文具などもいるだろう。頼まれて4月にも5月にも追加で送金した。だが、追加送金は6月にも7月にも続いた。それも、もう少しでなくなるというギリギリになってから言うてくる。どうやら計画的にお金を使うことができていないようだ。ダンスのサークルに入っていて、合宿がある、衣装を買わなければならない、などと追加送金を頼んでくる。体を動かすことは悪くないし、サークル活動が人間的にも成長をもたらすことは理解できる。だが、いついくらかかるのかわからないというのは問題だ。

寮生活を始めたら、とりあえず2ヶ月ぐらいでいいから家計簿をつけるように、入学する前から言うてあった。特に毎月の経常出費と、臨時の出費を分けて記録するように繰り返し伝えた。また例えば定期券のように数ヶ月に一度買えば済むものは、割り算して月々の予算として計上するように言うてあった。しかし、忙しかったせいか、親の言うことをまじめに聞いていなかったからか、何度も言ったにもかかわらず、家計簿をつけることはできていないようだった。レシートを保存していたようだが、毎晩整理することを習慣にはできなかつたらしい。小学生の頃から月々決まった額の「おこづかい」を渡していたが、「こづかい帳」をつける習慣はつかなかつた。母親が甘かつたので、ときどき不足した分を渡したりしていたようであるが、私はそれを何度もやめるように言うて夫婦げんかになったこともある。しかたがない、いまからでも遅くない、お金を管理することを覚えてもらわなくては。

8月には二つの合宿のほかにコンサートや映画にも出かけて、ついに次の送金日まで2週間を残して残金が2万円になってしまい、その上、サークルで集金があるから追加送金してほしいと言われ、そのうえ友達と京都旅行に行きたいとまで言い出し、さすがにこれはいけないと思い、説教することにした。

先の見通しを立てて計画的にお金を使うことは、当然、伝えなければならない。だが、私はそれ以上に大切なことがあると考えた。それはお金の価値を知ることである。

大学1年生と言え、大人への入り口である。経済的に自立できていない以上、その生活に保護者がある程度の責任を持たねばならないが、“遊び”にどこまで責任を持つのかは考えどころだ。例えば、旅行に行きたいと言われたときに親として援助すべきだろうか。

そこで私はまず「必要」と「付加価値」を分けて説明することにした。必要性や価値があるものと認めれば、ある程度までは財政支援するということである。家計簿は、何がどれだけ必要かどうかを判断する材料として欠かせない。つまり必要があるなら根拠を示さねばならないということである。ちよっ

と社会に出ればすぐに分かることだが、根拠を示さないとお金がもらえるということはなかなかない。私の職場でも予算編成をし、各部署に配分された後も、使うたびに所属長の決裁がある。無駄なものに使ってはいけないのである。何が無駄かを決めるのは簡単なことではないが、説得材料が必要だ。これは世界のどこへ行っても、権力を相互に監視するシステムがある民主社会ならば同じだろうと思われる。

では、サークル活動費や旅行費用はどうか。「必要」とまでは言えないだろう。サークルにも入らず、旅行にも行かないでがんばっている学生もたくさんいる。しかし、全く無駄とも言えない。私自身にも学生時代にした旅が人生の選択において大きな意味を持った経験がある。そこで私は、「価値」があるかどうかは、「必要」と同じように) 彼女自身が親を説得するようにと伝えた。「必要」ではないとしても、彼女自身の成長の材料として「価値」があると思えば投資しようというわけだ。高い学費を払って大学に行くことを認めたのも、寮に入ることを勧めたのも、価値があると考えたからにはほかならない。

では、価値を認めるかどうかの基準をどうするか。例えば、京都旅行に行くことはどうか。聞けばリビングを共用している寮生の友達が関西旅行している間に京都で合流していっしょに東京に戻りたいという。私は以下のように伝えた。

まず親の立場や、自分の立場を離れて、第三者が判断すると仮定してみよう。例えば難民が大量発生している南スーダンやシリアへの支援などに寄付をすれば、数千円でも助かる命があるかもしれない(図1参照¹⁾)。また、「国境なき医師団」ホームページによると、1500円で清潔な飲料水が63人の1ヶ月分、3000円で基礎医療セットが120人分、同じく3000円ではしかの予防接種が120人分、5000円で抗マラリア治療12人分、10000円で栄養治療食300食、30000円で抗レトロウイルス薬5人分だそうである²⁾。

仮に京都旅行で4～5万円かかるとしたら、どちらが価値のある投資だと思うか。もちろんそれは人の価値観によるだろう。南スーダンやシリアで何が起きても自分に関係ないと思えば旅行の方がいいだろう。でも、私はそうは考えない。だから、私から「必要」以上のお金がほしいのであれば、例えば上述

図1 特定非営利活動法人「国連UNHCR協会」(国連難民高等弁務官事務所・日本委員会) ホームページより)

<p>3,000 円</p>  <p>自然環境が厳しい中で 必要不可欠な 保温性の高い毛布3枚</p>	<p>5,000 円</p>  <p>避難中でも家族と 温かい食事がとれる 調理器具セット3家族分</p>	<p>10,000 円</p>  <p>水汲み容器、 ビニールシートなど 緊急避難生活セット4家族分</p>
<p>15,000 円</p>  <p>避難先でも 学校教育が受けられる 教科書55冊</p> <p>※1米ドル=104円換算</p>	<p>25,000 円</p>  <p>マラリアによる 感染症から身を守る 蚊帳50人分</p>	<p>50,000 円</p>  <p>暑さや寒さ、風雨から 家族を守る テント1帳</p>

¹ <https://www.japanforunhcr.org/form/donate/>

² http://www.msf.or.jp/donate/index.html#donation?page=2&code=WEB1402&gclid=Ci0KEQjwvufBRcwzpzvqfkhrcBEiQA8b-SHLozjxE30DwrBH5bszpb8J_SJ3lvotDf49gHxH28RAaAiQG8P8HAQ

の使い道よりも価値があることを私に対して説得しなければならない。そうでなければ、遊ぶ金ぐらいは自分で稼がないと。私は何も旅行に行くことに価値がないとは言っていない。私だって、たまにはお金を使って遊んだりおいしいものを食べたりする。(それは働いたうえでの自分の健康を保つためのものと思っはいるが。必要以上のぜいたくを申し訳ないと思気持ちがどこかになれば、おかしいと思は思う。) ダンスのサークルの費用をサポートしてきたのも、君の考えを聞いてそれなりの価値があると考えたからだ。いつもいっしょにいる寮生と仲良くするだけなら、何万円も出して京都に行く必要はないと思えるけどね。どうだろう？

幸い？我が娘は素直に納得したらしく、京都旅行は取りやめた。最近アルバイトも始め、家計簿もつけると約束した。お金の管理をする能力の必要性は理解しているようだ。だが、本当に私が考えてほしいと願っているのは、お金を使うかどうかを決めるときの価値基準である。数千円で助かる命もある。それが、私がお金の使い道を考えるときの基準なのである。では、みんなが数千円を貯めて送り続けたら世界の貧困問題はなくなるのだろうか。おそらくそういう問題でもない。とりあえずの対策のためにお金は必要だが、紛争や貧困は原因をなくさなければなくなるからだ。私の言いたいことを娘が本当に理解したかどうかは、彼女の将来を見ればわかるだろうと私は思っている。

(松下達彦、2014年8月31日、書き下ろし)